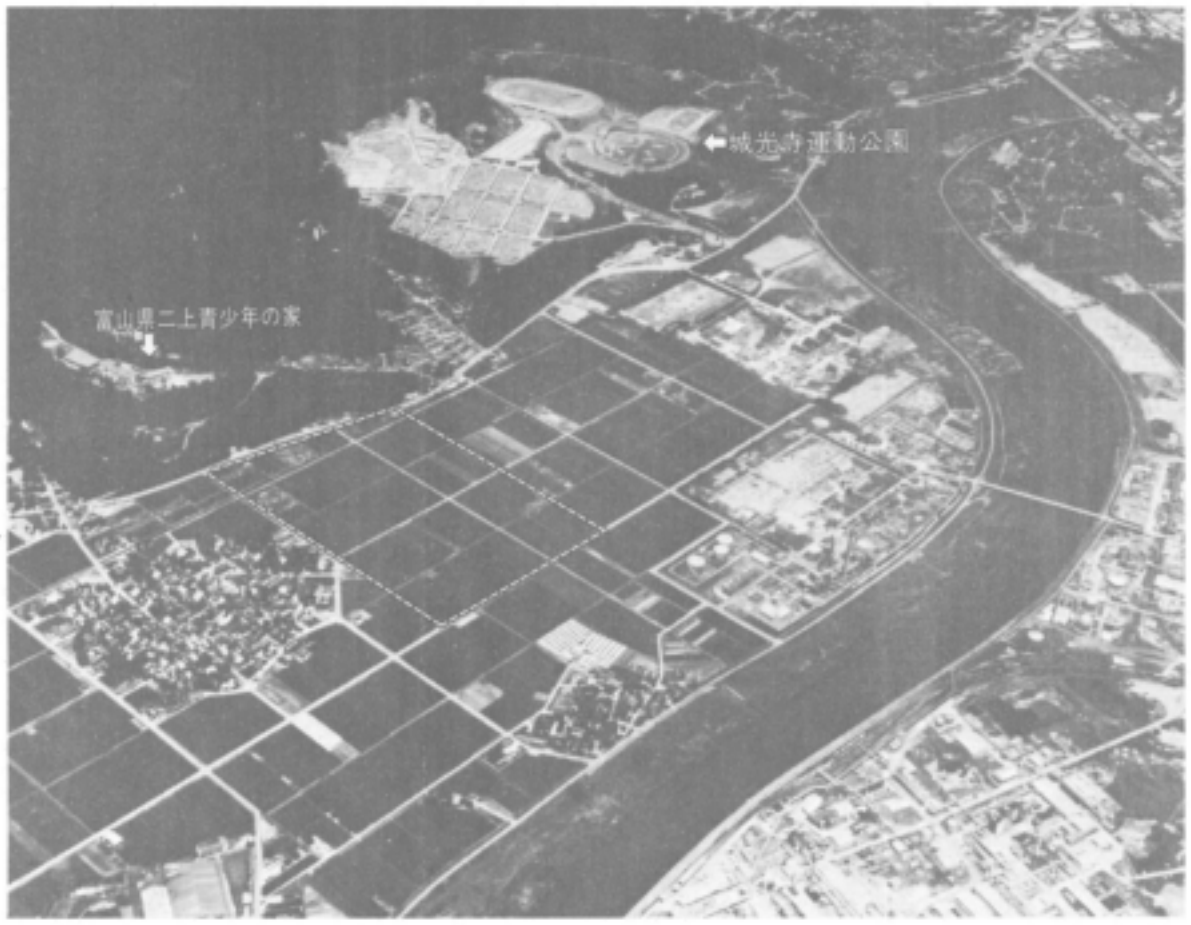
わが国唯一の国立高岡短期大学 あす開学

地域社会に開かれた特色ある短大



高岡市二上地内の建設予定地

「広く地域社会に開かれた特色ある短大」をのキャッチフレーズで設立準備が進められてきた国立高岡短大学（高岡市）はいよいよあす一日開学の運びとなった。国立ではわが国唯一の独立した短大の誕生である。新短大は社会人の積極的な受入れを図るほか、地域の民間企業等における学外学習を重視する、いわゆる産・学の交流の推進等を持つなど画期的な国立短大となる。この開学を契機に新短大は、カリキュラムの編成、教育の人選、校舎の設計・建設などに本格的に取り組むことになるが、すでに初代学長（十月一日就任）に内定している横山保大阪大学経済学部教授は「社会人に広く門戸を開放し、技術、技術、科学の一体化と密度の濃い教育を推進したい」と抱負を述べている。一方、地元、官界・政財界でも郷高岡短大協力会を発足させるなど、どすでに強い高岡の支援体制を確立している。

◇ユニークな教育研究組織

あす開学する新短大は、六十一年四月から学生を受け入れるが、その在り方、特色をみると「地域社会の本格な要請に積極的にこたえ、開かれた特色ある短期大学とする」設立の趣旨のもと、①教官に外交官、民間人専門技術者を起用する②高校からの技術入学ばかりでなく、民間企業に勤く社会人にも推薦の枠を広げる③社会人学生には、市町村主催の社会体育受講でも単位履修とみなす――などの新しい短大」（文部省）のモデルとなるもので、既存の国立短大群の私立短大にも大きな影響を及ぼしそうだ。

学科では、地場産業である伝統的工芸品産業の発展に寄与する工芸技術、実務的な経理、経営及び情報処理、並びに外国語及び国際関係等の分野における職業に必要な能力を育成することを目的とし、産業工芸学科と産業情報学科の二学科が置かれるが、そのユニークさは①学科の充実を待って学科課制とする②入試に際し学科や専攻分野に対する能力、適性に留意する③地域の社会人を対象に公開講座を開くほか、一定期間受講した聴講生には入学の機会を検討する④地域の伝統工芸関連企業との共同研究・技術一などの点にわたっている。

このほか課題として、コンピューターなどと深い関られた特定分野に関して、専修学校に出向いて単位履修を認めるなど、専修学校との連携も検討していく予定だ。

社会人の推薦入学も

◇機械、技術、科学の一体化教育をめざして

また、初代学長に内定している大阪大学経済学部の横山保教授は、経営事務のコンピューター理論を確立するなど、数理経営学・経営情報システムの第一人者。この点、産業情報学科のある新短大は、この分野でトップクラスの期つでもない人物をいただくことになったわけで、同教授の豊かな学識が同短大を教育面でにしてうだ。設備面では、コンピューターで高度蓄積した「コンピューターによる自動設計」を使い、グラフィックデザインや製図などに活用する方針を打ち出している。

さらに地域に密着した「コミュニティーカレッジ」として特色を出すため、先述の公開講座や地域の関連企業との共同研究等が行える、大学開放センターも併設される。これに内定の記者会見の中で、「大学卒業生して社会経験を積んだ人たちが、しっかりとした自分の意識を持ち専門的に勉強する場が必要」とのかねてからの考えから、高岡短大でも「社会人に広く門戸を開放したいとし、「従来の大学とは違った、新しい考え方を積極的に取り入れる、「実験、実習などを伴う講義については、宿泊施設を用意して集中的にできるようにしたい」「従来の大学で行われている開放講座に終わらせないためにも、一般教官とは別の、センター専任教官を置き、フルに活用するつもりだ」と大学開放センターを重視していくことを強調。教官への民間人らの積極的な登用と相まって「学歴や教職歴にとらわれず、広い視野に立って技術、技術、科学を一体化した教育を展開したい」と、開かれた大学づくりへの強い意欲を語っている。

「従来の四年制大学の縮小型には絶対にしたくない。きちんとした基盤のうえに新しい性格づけをする」と述べた横山初代学長に対する地元の全幅の信頼と期待には極めて大きいものがある。

◇高岡短大後援会の発足

一方、地元としては、あす開学する高岡短大を「地域の多様な要請にこたえるコミュニティーカレッジに育て発展させるには、物心両面で協力していく必要がある」（中沖知事）との考えから、新短大の設立に必要な教育設備の整備充実に協力する「財団法人・高岡短期大学協力会」を発足させている。同会は田内行政、議会、経済、教育、産業などを網羅し、まさに「郷民の長年の念願であった高岡短大」の協力会にふさわしい全面的なものとなっている。同会は五十八、九年度に新短大の施設充実へ、計二億円の募金をすることを決めている。事業計画・予算では、寄付金収入を「五十八年度一億円」として「五十九年度一億円」としており、物心両面からの支援体制は確立するというところ。

今後は、六十一年四月の開校に向けて地元一人一人の物心両面にわたる協力がまたれる。

明日、国立高岡短期大学学長に就任する大阪大学教授の

横山 保氏（六三）に聞く

――開学後の二年間は

「当面地元のいろんな分野の人に幅広く会いしていろんな意見聞くつもりです。大学の具体的な方向付けはそれからですが、基本的には広い視野に立って、技術、技術、科学を、体化した教育を目指します。とくに実際に関した教育を展開したいですね。技術、技術をしっかりと実につけて科学を活かすことが大事です。前述、全国に入って基礎がしっかりしていない人が多い。国語一つにしても書物をしっかりやらせず、技術的な教育、実習を徹底して行いたい。産業工芸、産業情報二学科ですが、コンピュータとしても実習を、しっかり推進すること。工芸の分野でもレザー光線によって彫るなど新しい技術をとり入れるなど幅広い考えが必要です。」

――研究面はどのように考えて。

「将来、専攻の充実を待って対処して行きますが、研究面でも年に四年制大学を切かえしたいと考えています。また、専門大学院でも、いずれにしても今後の検討課題です。」

――産学協同が強調されていますが。

「当面は開放センターを中心に、社会人を対象にした講義を年間をしますが、研究面にも広げたい。社会のニーズを先取りした教育・研究を進めるためにも産業界との連携、インターディシプリナリー（学際的）なアプローチが必要です。人材を地元に引きとめるためにも、いい先生に情熱をもって社会に役立つ学生を送り出してもらいたいと考えています。また、身障者の方も機械的に受けられたい。このため施設なども充分な配慮をしたりのにするため文部省とも話し合っていますので、二学科とも充分期待したいものと思います。」

地域社会に開かれた特色ある短大

◇工芸技術、産業情報学科

「国立高岡短大」開学までの歩み

（ここ一年間の経過要約）

56・11・27 県、高岡市が文部省に短大創設登録の手続化を要望。

57・11・29 国有財産審、富大工学部グラウンドの譲渡承認。高岡短大の創設許可、大きく前進。

57・12・17 文部省「短期大学（高岡）に関する調査会」開催、「創設」で予算要求に決定。

57・12・28 創設費2千7百万円認可、定員2百名、産業工芸学科、産業情報学科の2学科構成で58年度開学、61年開校に決定。

58・2・14 高岡短大創設準備委員会、文部省「地域社会に開かれた、全国のモデル校」との基本構想を表明、正式名称を「高岡短期大学」に決定。

58・3・16 初大学長に大阪大学経済学部の横山保教授（62）に内定、8月1日付で創設準備室長に発令。

58・6・8 財団法人高岡短期大学協力会の設立発起人会開催、2年間で3億円募金計画を決定。

58・6・22 文部省、59年度高岡短大の概算要求を4億9千万円に決定。

58・8・31 「郷高岡短大学協力会」発足。

58・10・1 開学。

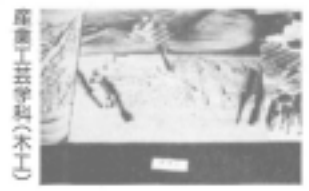
59・10・1 校舎着工

61・4 学生受け入れ開始（開校）

《学科・定員》

学科	入学定員	収定員
■産業工芸学科	75人	150人
金属工芸専攻	（20人）	（40人）
漆工芸専攻	（15人）	（30人）
木材工芸専攻	（15人）	（30人）
産業デザイン専攻	（25人）	（50人）
■産業情報学科	125人	250人
経営実務専攻	（40人）	（80人）
情報処理専攻	（40人）	（80人）
ビジネス外語専攻	（45人）	（90人）
・英米コース	（30人）	（60人）
・中国コース	（15人）	（30人）
計 2学科	200人	400人

産業情報学科


産業工芸学科（木工）

産業工芸学科（漆工）

産業工芸学科（金属）

高岡短期大学の開学を祝す

富山県知事 中沖 豊

県民百年にあたる意義深い年に、全国初の新しい構想による国立の高等教育機関として高岡短期大学が開学されることに当たり、心からお祝いを申し上げます。

御承知のとおり、本県は「人づくり」に精力的に取り組んでいるところでありますが、人づくりの一つの重要な拠点たる高等教育機関の整備につきましては、未だ十分とはいえない状況にあります。

こうした状況のもとで、願しい国の財政事情にもかかわらず、本学の創設が特に認められましたことは誠に喜ばしい限りであり、今日まで本大学の設置に向け関係各位から寄せられました特別の御協力、御努力に対し厚く御礼申し上げます。

本大学は、地域の多様な要請に積極的にこたえ、地域社会に開かれた大学、いわゆるコミュニティー・カレッジとしての性格を有する大学であり、今後の大学の一つの理想の姿を指向するものであります。

本大学が、その創設の趣旨にふさわしい優秀な人材の確保と施設・設備の整備充実を図り、地域に密着したキャンパスとして大きく発展されることを祈念いたしましてお祝いのことばといたします。

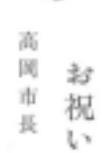
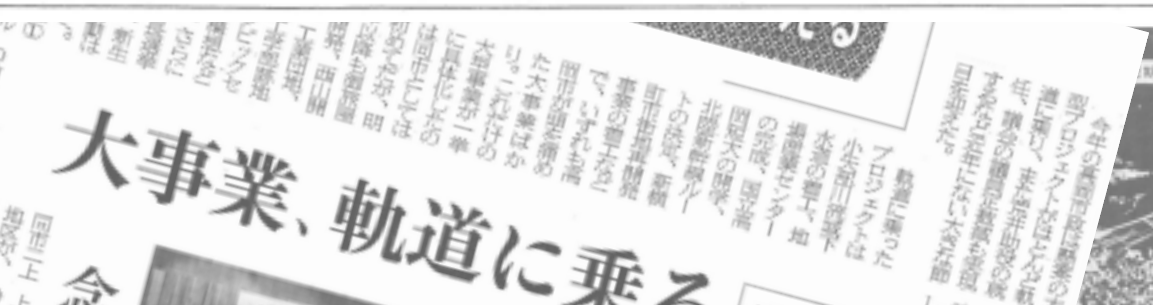
高岡短期大学の開学を祝す

高岡市長 堀 健治

本市が多年にわたり念願していた高岡短期大学が、ここに開学の運びとなりましたことは、ひとえに貴下の方々をはじめ、関係各位の深い御理解と御協力の賜と心から感謝申し上げます。

高岡短期大学は、教が国で初めての独立した国立短大として創設され、地域の工芸と産業情報の二学科が置かれるほか、短期大学開放センターが設置されるなど、全国の短大のモデルケースとなる画期的な試みが多様な要請にこたえ、広く地域社会に開かれた特色ある大学、いわゆる地域カレッジとして構想されています。本短期大学には、産業工芸技術センターと、産業情報センターが設置されるなど、地域の人づくりに積極的に取り組まれていることに、心から敬意を表します。

本短期大学が個性豊かな文化都市の実現を目ざす本市にとって、開校して建設される工業技術センターとともに、産業文化の殿堂として整備充実されるよう祈念してお祝いのことばとします。

お祝いのことば

高岡市長 堀 健治